

2009年5月14日

**ランクセス、経済危機対策プロジェクトで需要低迷に対応**

ランクセス株式会社

- 第1四半期の売上高は、31.3%減の10億5,400万ユーロ
- 特別項目調整前 EBITDA<sup>\*1</sup>は、6,600万ユーロ(前年同期:2億2,000万ユーロ)
- 健全なキャッシュフロー、純負債は減少
- 第2四半期の特別項目調整前 EBITDA は1億ユーロから1億2,000万ユーロの範囲と予測

<sup>\*1</sup> EBITDAは、税引前利益に、減価償却費、および支払利息を加算した金額です。

特殊化学品メーカーのランクセス(LANXESS)は、2009年第1四半期の業績を発表しました。世界的に大変厳しい市場環境の影響を受けて、2009年第1四半期の需要は大幅に減少しました。一方で、利子税引前利益は、グループ全体で取り組んだ経済危機対策プロジェクト「チャレンジ09」の成果もあり、良好でした。ランクセスは、第2四半期には需要が回復し、「チャレンジ09」の成果も徐々に現れ、業績が好転すると予測しています。

グループの売上高は、前年同期比31.3%減の10億5,400万ユーロ(2008年第1四半期:15億3,500万ユーロ)となりました。事業ポートフォリオ再編と、ランクセスにとって有利に働いた為替変動の調整後売上高は、前年同期比37.9%減となりました。販売量では、36.1%減となります。特別項目調整前 EBITDA は、70%減の6,600万ユーロ(前年同期:2億2,000万ユーロ)となり、EBITDA マージン<sup>\*2</sup>は、6.3%(前年同期:14.3%)となりました。ランクセスは、前四半期に引き続き、原料の再調達価格の低下を受けて在庫の帳簿価格を約4,000万ユーロ切下げました。

ランクセスグループの第1四半期の純損失は、1,400万ユーロ(前年同期は純利益:1億400万ユーロ)でした。営業活動によるキャッシュフローは、前年同期より7,700万ユーロ増加し1億2,200万ユーロとなり、純負債の大幅な削減を可能にしました(2009年3月31日付:7億4,400万ユーロ、2008年度末:8億6,400万ユーロ)。

世界規模の不況は、全てのビジネスユニットに影響を与え、ランクセスに対する需要も過去最大の35%以上まで落ち込みました。一方で、グループ全体で経済危機対策プロジェクト「チャレンジ09」を迅速に策定、着手したことにより、前年同期の高収益レベルのほぼ3分の1を達成することに成功しました。

「チャレンジ 09」による取り組みには、複数の技術的な対応策、労働時間短縮、従業員給付削減があります。この対策により、ランクセスは 2010 年までに約 2 億 5,000 万ユーロのコスト削減を目指します。この世界的プロジェクトの主な特徴は、柔軟性ある設備運営です。ランクセスの組織は小規模ユニットで構成され、世界中の製造拠点がネットワークで繋がり、柔軟な製造量の調整が可能な製品に注力しているため、需要変動に迅速に対応することができます。このことが「販売量よりも価格を優先する」戦略を可能にしてきました。また 2009 年に 1 億ユーロ規模の設備投資が予定されていた主なプロジェクトは、延期しています。

グローバルで柔軟な設備・製造工程管理と、一層の費用削減対策は、損益分岐点を少なくとも 10%引き下げることになります。

\*<sup>2</sup> EBITDAマージンは、売上高に対するEBITDAの比率です。

## 事業分野別の業績

**パフォーマンスポリマーズ部門:** 同部門は、ゴム事業とセミクリスタリンプロダクツビジネスユニットから構成され、売上高は 35.4%減の 4 億 4,800 万ユーロ(前年同期:6 億 9,300 万ユーロ)となりました。販売量は 40%減となり、同部門の全てのビジネスユニット、特にテクニカルラバープロダクツは、売上高減少の影響を受け著しく伸び悩みました。これは同部門の顧客の全産業、特に自動車分野における世界的な需要減が要因です。パフォーマンスブタジエンラバーズビジネスユニットは、ペトロフレックス社の買収が収益の増加に貢献しました。

販売量の低迷による操業度の低下により、同部門の特別項目調整前 EBITDA は 92%以上減の 800 万ユーロとなりました。在庫の帳簿価格切下げと、引き続き顧客の在庫調整の影響により、損益構造も悪化しました。これにより EBITDA マージンも減少し、1.8%(前年同期:15%)となりました。

**アドバンスト中間体部門:** 前年同期(3 億 2,900 万ユーロ)の好業績から一転し、売上高は 21.6%減の 2 億 5,800 万ユーロとなりました。同部門に属する 2 つのビジネスユニットにおいても販売量が低下しました。農薬中間体の市場は、ランクセスが取引する他の市場に比べ、第 1 四半期の需要低迷による影響が大きくありませんでした。サルティゴは、顧客の産業における需要の影響が比較的少なく、予測通り堅調な業績を達成しました。特別項目調整前 EBITDA の減少は、売上高の減少率に比べ緩やかで、17.9%減の 4,600 万ユーロ(前年同期:5,600 万ユーロ)となりました。EBITDA マージンは、0.8 ポイント増の 17.8%と微増しました。

**パフォーマンスケミカルズ部門:** 同部門に属する全てのビジネスユニットの販売量が減少し、売上高は 31.7%減の 3 億 3,800 万ユーロ(前年同期:4 億 9,500 万ユーロ)となりました。同部門の事業は、建設、衣料、家具、自動車、鋼鉄など、この数ヵ月間に需要が急落した産業を主な取引

先としています。特別項目調整前 EBITDA は、52.4%減の 3,900 万ユーロ(前年同期:8,200 万ユーロ)となりました。EBITDA マージンは、5.1 ポイント減の 11.5%となりました。

### 今後の見通し

顧客の産業が予測困難な状況であるため、ランクセスは、2009 年通年の詳細な予測をすることは依然として不可能と考えていますが、売上高および収益は昨年度のレベルを下回ることにないと見えています。

第 2 四半期の特別項目調整前 EBITDA は、1 億ユーロから 1 億 2,000 万ユーロの範囲と予測されます。また利益は、第 1 四半期より大幅な回復となるものの、前年の第 2 四半期を下回ると見えています。第 2 四半期は、「チャレンジ 09」の成果に加え、顧客の在庫削減がおおむね完了し、アジア地域における需要が再び改善方向に向かうことが期待されます。必要な在庫の帳簿価格切下げは、1,000 万ユーロのみとなります。

ランクセスは健全な財務状態にあり、現在は 20 億ユーロを上回る流動性を確保しています。

### 2009 年第1四半期 主要データ

(単位:百万ユーロ、変動率:%、\*2008 年データは修正済)

	2008年第1四半期	2009年第1四半期	変動率(%)
売上高	1,535	1,054	(31.3)
特別項目調整前EBITDA	220	66	(70.0)
特別項目調整前EBITDA マージン(%)	14.3	6.3	
特別項目調整前EBIT	159	3	(98.1)
純利益(損失)*	104	(14)	

# # #

このリリースは、ドイツ・レバクーゼンで5月7日に発表されたリリースをもとに、ランクセス株式会社が発表したものです。

このリリースの原文(英語)は、以下のURLにてご参照下さい。 <http://www.press.lanxess.com>

## ランクセスについて

ランクセスは、世界23カ国で事業を展開する大手特殊化学品メーカーです。2008年の総売上は65億8,000万ユーロにのぼり、全世界の従業員数は約14,600人、世界中に44の拠点を展開しています。主な事業は、プラスチック、合成ゴム、中間体、特殊化学品の開発、製造とマーケティングです。ランクセスについての詳細は同社URLにてご確認下さい。<http://www.lanxess.co.jp>

本件に関するお問い合わせ先:

ランクセス株式会社 コーポレートコミュニケーションズ

佐野 公美

TEL : 03-5293-8005 FAX : 03-5219-9773

kumi.sano@lanxess.com

### **免責について (Forward-Looking Statement):**

このニュースリリースには、ランクセス経営陣による現在の仮定と今後の予測に基づく記述があります。既知あるいは未知の各種リスクや不確定性、その他の要素により、本頁に記載された予測と弊社の今後の総合売上高、財務状況、業績の数字が異なる場合があります。弊社は、ニュースリリースの記載事項を更新、もしくは今後の出来事や進展状況に合わせ、内容を変更する義務はないものとします。

(2009-00097J)